

「(仮称)地域委員会構想」 について

企画政策部企画課
市民自治推進担当



経緯・国の施策との関連

- 第三期自治推進委員会「コミュニティ自治推進に向けた検討報告書」(H23.6)

- 第五次多摩市総合計画

市

第1期基本計画 (H23~) 「(仮称)地域委員会構想」の推進

第2期基本計画 (H27~) 「健幸都市(スマートウェルネスシティ)・多摩の創造」

【3つの取組の方向性のうちの1つ】

第3期基本計画 (R元~) 「健幸まちづくりのさらなる推進」 【計画の基盤となる考え方】

「市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり」

【3つの重点課題のうちの1つ】

- 「地域共生社会」の実現 (厚生労働省)

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が、「我が事」として参画し、人と人、人と資源が、世代や分野を超えて「丸ごと」につながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

国

- 「地域運営組織」の形成 (総務省)

地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組みを持続的に実践する組織



「(仮称)地域委員会構想」の実現に向けた取組みに本格的に着手

地域コミュニティに関連する施策を展開する上での課題

所掌事務	課題
大学連携	連携事業が地域課題の解決にはつながっていない、市内の大学と社会人の学び直し(リカレント)講座を実施
公民連携	地域の中にある資源(店舗・事業所)とつながるしくみがない
地域担当職員制度の導入	職員の多く(7割)が市外在住、仕事で地域に出ない・知らない
コミュニティの醸成	自治会の加入率が伸びない(転入者が加入しない、高齢者が脱会)、コミセン運協の人材不足(若い世代がいない)
生涯学習の推進	個人の学びが地域への還元につながらない(システムがない)
地域福祉・地域包括ケア	民生・児童委員の人材不足、地域の中で包括的に相談を受ける場がない(対象者ごとになっている)
健幸まちづくり	若い世代の中で健幸まちづくりが浸透していない、運動になっていない
学校と地域の連携	コーディネーターの人材不足、子どもが学校を卒業すると地域とのつながりがなくなる
地域人材の育成 (地域の担い手育成)	講座修了者が地域で活躍する人材につながらない(システム・ルートがない)

新たなしくみの必要性 ①

地域の現状

地域には、少子高齢化の進行、共働き世帯の増加、定年延長や、地域に関心をもつ市民の割合が減っていることを背景とした、地域力の低下や担い手不足など、さまざまな課題が生じている一方で、多くの緑や良好な住宅環境、歴史や文化があり、また、さまざまな知識や経験、スキルをもった市民、さまざまな分野で活動するNPOや大学が存在するなど、多くの財産がある。(さらに、コロナ禍で、在宅ワークが進み、昼間人口が増加している)

⇒ このような地域の人材や資源を活かしながら、市民同士で支え合う地域づくりが持続して行われる社会(地域共生社会)をつくることが求められている。

⇒ これを実現するために、新たなしくみをつくっていくことは必要

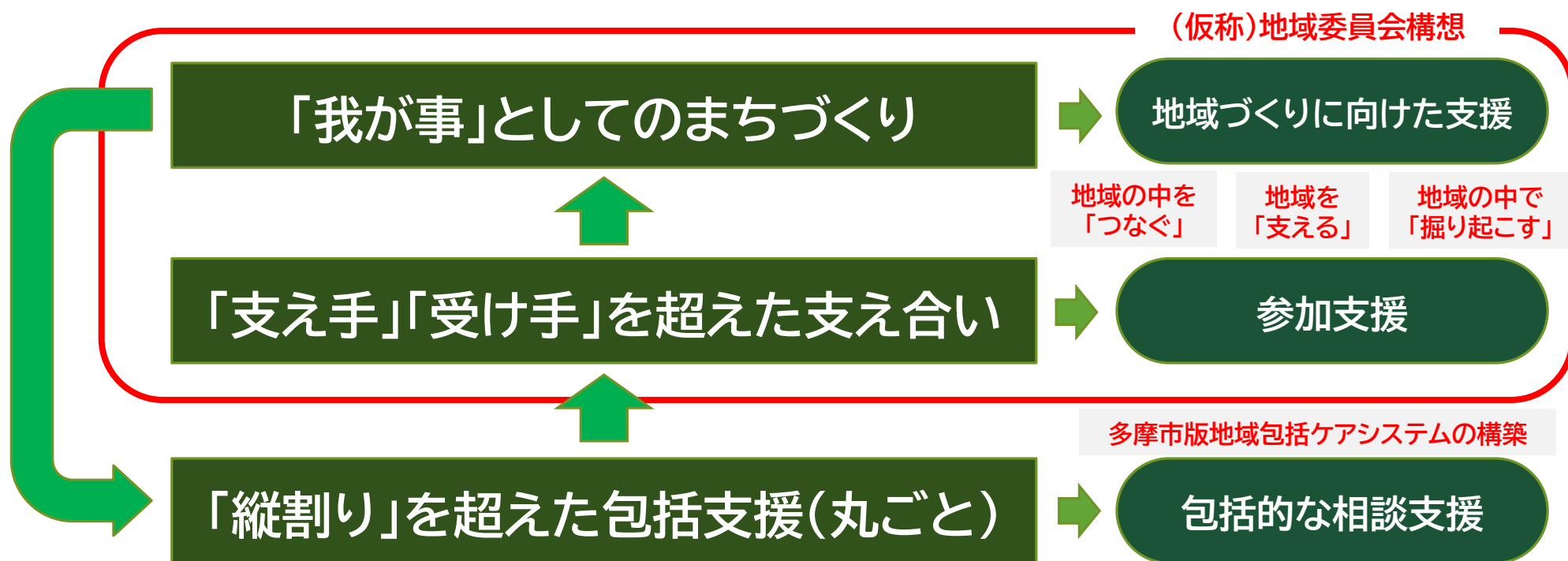
しくみのイメージ

- 市民や団体が横につながり、話し合い、課題を共有する場づくり
- みんなが参加し、みんなで支え、みんなで育む地域づくり、地域組織づくり
- 地域の各団体が連携して、不足している取組みを補うとともに、負担も軽減できるしくみ
- 縦割りを解消した、地域と行政との連携、協働のしくみづくり
- 働きながら、子育てしながらでも参加でき、継続できるしくみづくり

「地域共生社会」をつくるとは？ (中央大学宮本太郎教授の資料を一部修正)

地域共生社会とは

制度・分野ごとの「縦割り」や、「支え手」⇔「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、地域をともに創っていく社会



新たなしくみの必要性 ②

(仮称)地域委員会構想とは

目的

市民同士で支え合う地域づくりが持続して行われる社会
(地域共生社会)の実現



市民や地域による自治を推進していくための新たなしくみ
【≡(仮称)地域委員会構想】が必要

- ⇒ 「支え手」⇔「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画していくことができるしくみ
- ⇒ 「支え合い」に参加できるための支援、地域づくりに向けた支援

目的達成のための手段

3つの要素	具体的なしくみ(支援策)の例
地域の中を「つなぐ」	地域の多様な主体が参画する住民協議会の設置など
地域を「支える」	地域担当職員の設置、地域一括補助金の交付など
地域の中で「掘り起こす」	エリアミーティング、地域人材養成講座の実施など

(参考) 地域共生社会と自助・公助・互助・共助

- 自分のことは自分で解決
- サービスを市場から購入

自助

- 当事者団体の取組で解決
- 有償ボランティアの支援

互助

- ボランティア活動
- 地縁団体の活動

- ボランティア、地縁団体の活動への

公的支援

共助

- 多様な主体間の連携・交流による問題解決
- 地域協議会など、地域自治による取組

公助

- 行政サービスによる課題解決

(出典) 地域包括ケア研究会報告書掲載資料を一部修正

想定モデルエリア

既存地区

第一小学区
(多摩中のお大半)

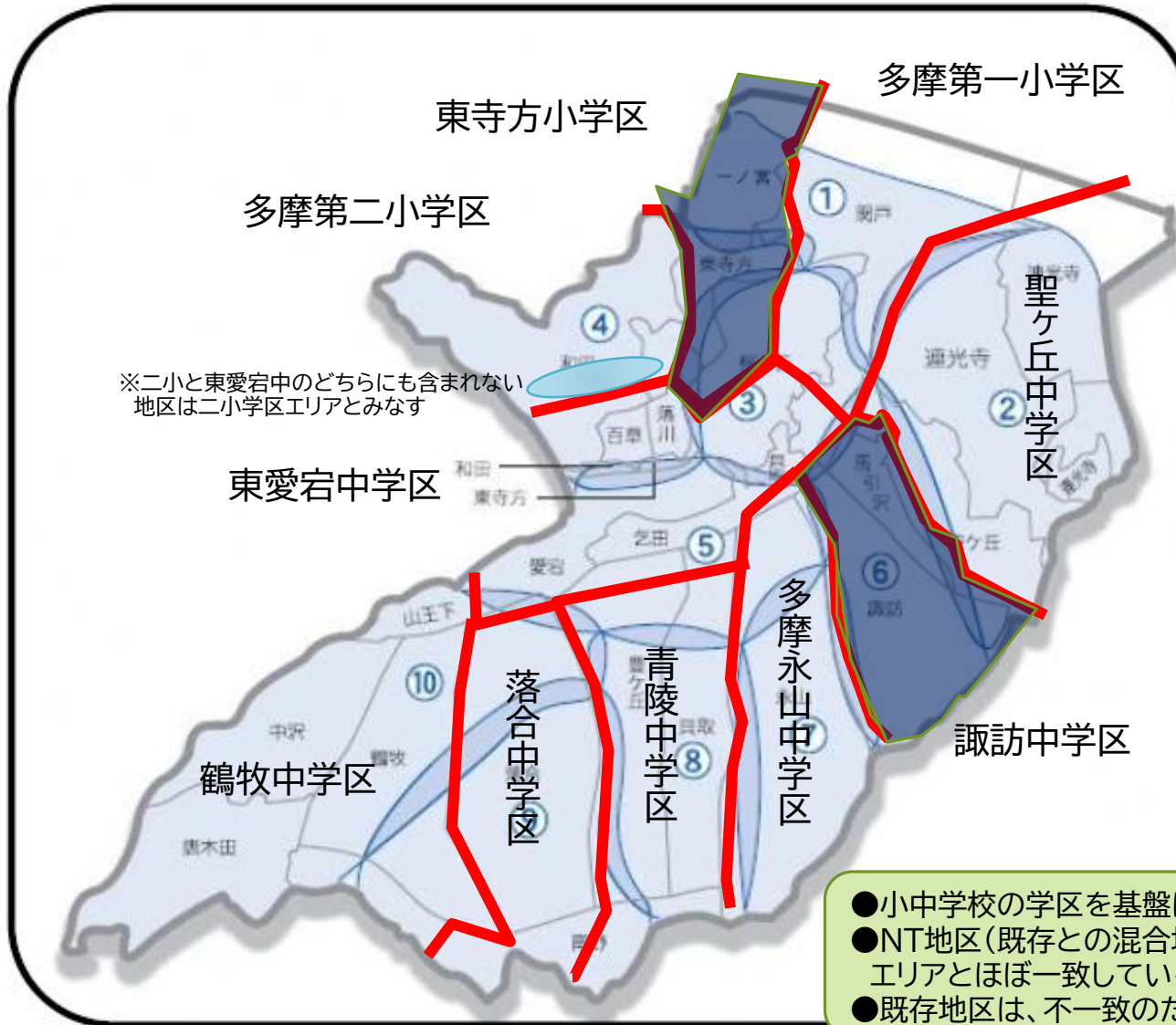
東寺方小学区
(多摩中・和田中の一部)

第二小学区
(和田中のお大半)

既存・NT 混合地区

聖ヶ丘中学区
(連光寺小・聖ヶ丘小)

東愛宕中学区
(第三小・愛和小)



NT地区

諏訪中学区
(北諏訪小・諏訪小)

多摩永山中学区
(永山小・瓜生小)

青陵中学区
(豊ヶ丘小・貝取小)

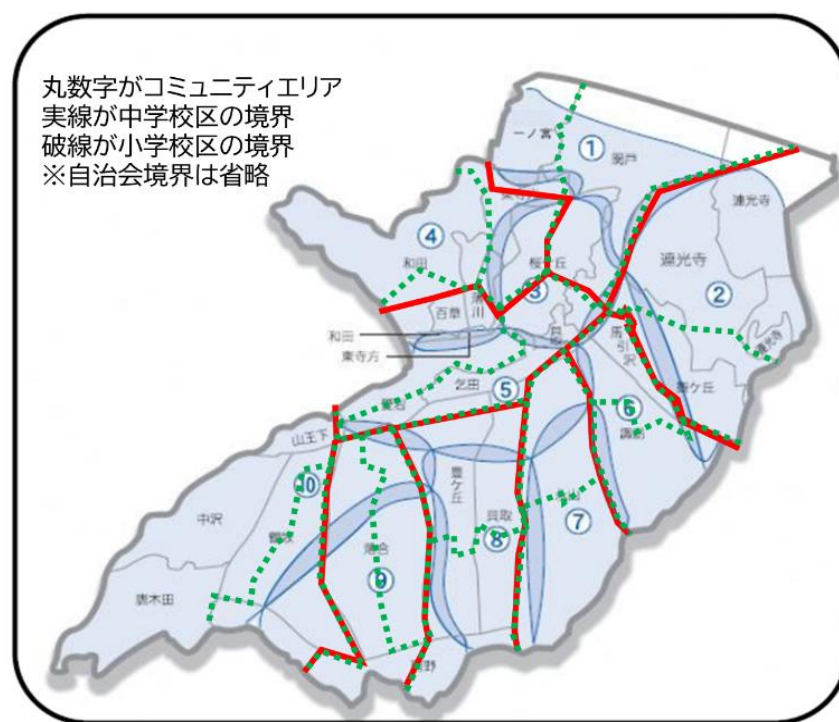
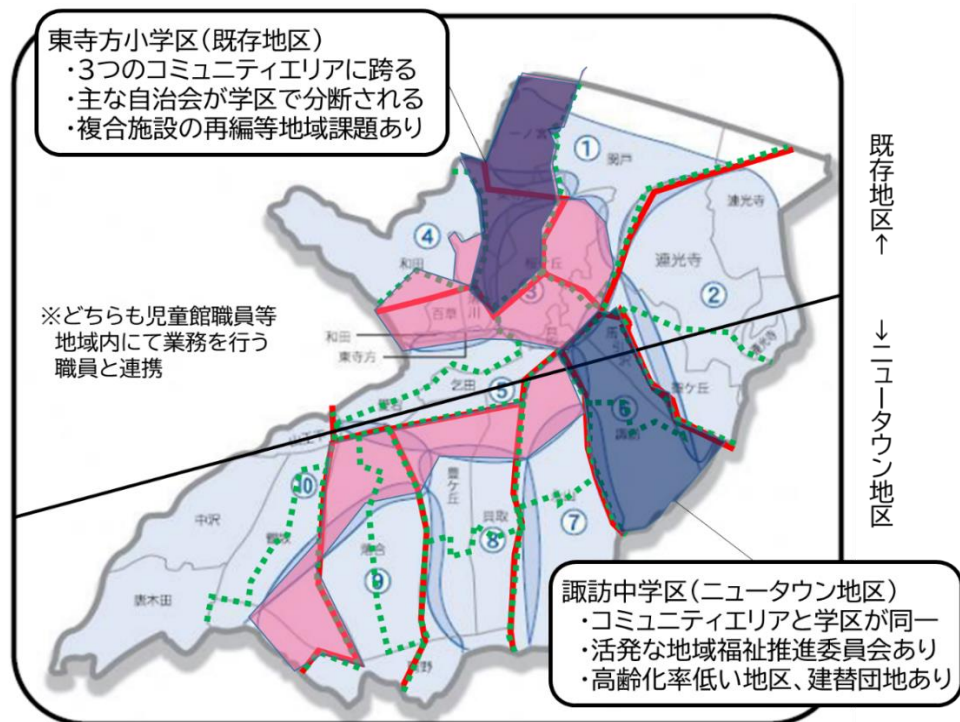
落合中学区
(東落小・西落小)

鶴牧中学区
(南鶴小・大松台小)

- 小中学校の学区を基盤にエリアを設定
- NT地区(既存との混合地区)は、コミュニティエリアとほぼ一致しているために中学校の学区
- 既存地区は、不一致のため小学校の学区

令和2年度モデル事業

	エリア	エリアの特徴
1	東寺方小学区エリア	<ul style="list-style-type: none"> 既存地区にあり、域内には戸建建設などで若い世代の流入がある 3つのコミュニティエリア（第1・第3・第4）にまたがっている エリアを網羅する地域福祉推進委員会が存在しない
2	諏訪中学区エリア （第6馬引沢・諏訪コミュニティエリア）	<ul style="list-style-type: none"> N T地区にあり、新住・区整が存在し、集合住宅の建替がある コミュニティエリアと小中学校の通学区域がほぼ重なっている エリアの地域福祉推進委員会が比較的活発に活動している



令和2年度モデル事業

1 東寺方小学区エリア

目 標

令和3年度以降に第2段階に発展させていくことを見据え、多世代が集う地域懇談会（エリアミーティング）を複数回開催。開催にあたっては、地域で活動する団体及び子育て・現役世代等幅広い世代の市民の参加を促し、参加者間で地域課題を共有化し、市民同士及び市民と市職員との関係を築く。

(1) 無作為抽出アンケート（8月頃）

「地域の暮らしやすさと雰囲気づくり」に関するアンケート調査を、エリア内にお住いの2,000～3,000名の方に送付し、住民意識調査を行う。

(2) エリアミーティングの開催（3回（概ね10月、11月、1月の土日）予定）

(1) のアンケート送付の際に案内を同封し、参加者を募集。

会場は東寺方小学校体育館もしくはランチルーム等を予定。（10月は市役所で開催）

<予定>

第1回：アイスブレイク、防災等市民共有の関心高いテーマでのワークショップ

第2回：自治体経営シミュレーションゲーム（SIM）

第3回：データを用いた地域カルテを作成

※文化・生涯学習推進課「わがまち学習講座」とも連携

参加しやすい場づくりに関して中央大学国際経営学部
中村ゼミと共同研究

1 プログラム

20代~70代の幅広い方が参加

● エリア居住参加者数：38名

- (1) アンケート集計結果報告 (中央大学国際経営学部 中村准教授)
- (2) 「私の暮らしの中に見つける安全と快適のアイデア
~地域とつながっていくクリエイティブ防災」

【講師】 **松本 祐香** 氏 (東京大学大学院教育学研究科
学校教育高度化・効果検証センター 協力研究員・防災士)

- ① 講義
- ② ワークショップ「いざというときに気がかりなこと」
- (3) 今後の予定について (多摩市企画課)

3 ワークショップ

コロナ下での実施のため、ふせんを貼る簡易手段で意見を共有しました。

- 松本講師から、非常時だけでなく日常にも役立つ (オールパーパスな) **防災**についてお話がありました。
- 「いざというときに気がかりなこと」について、①「発災前」、②「発災直後」、③「発災後」の3つのタイムラインに分けて、ふせんへ書き出し
- 書いたふせんを模造紙へ貼ってまとめ、グループごとに発表いただきました

<グループ意見まとめ>



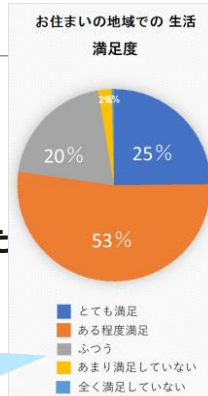
<ワークショップの様子>



2 アンケート集計結果報告

538名から回答

- 中央大学中村先生から、東寺方小学区にお住まいの方へ無作為抽出で事前送付したアンケートの集計結果 (速報) について説明がありました
- 就業している方が72%であり多忙な方が多い
- 災害時など身近に声をかけあえるご近所づきあいがある方は54%であるものの、46%の方がなしと回答
- 地域活動に関心がある方は50%だが、現在参画しているのは10%である。
- 住民同士でつながる場に参加したい方は26%であり参加しない・できない方の45%が時間がないためだった



<参加者の声>

● 80%近くが生活に満足とのアンケート結果は素晴らしいが、より一層増加するよう行政と一体になって進めたい

4 参加された方の感想・今後の流れ

【感想】 エリアの中の同エリアでグループミーティングもいいと思う、長い間職場中心の生活だったので自分の住む地域の現状がわかってよかった、もっと若い世代の参加が進んだり世代ごとのグループワークができると面白い、全体像を先に示してほしかった

今後のイベント企画・運営に活かします！

【今後の流れ】

- 第2回エリアミーティング (11/29)
- わがまち学習講座 (12/12、1/17)
- 第3回エリアミーティング (1月末~2月初旬頃)

地域のデータを集めてまちのビジョンを一緒に考える場をつくります！



【お問合せ】

多摩市企画政策部企画課 TEL 042-338-6813 (直通)

市HP QRコード→

公式ホームページ <http://www.city.tama.lg.jp/0000011459.html>



令和2年度モデル事業

2 諏訪中学区エリア（第6 馬引沢・諏訪コミュニティエリア）

目標

馬引沢・諏訪地区の地域福祉推進委員会とともに、地域に居住する若者世代が参加しやすいイベント等を実施し、地域参加のきっかけをつくるとともに、参加者とのつながりを深くすることで、地域活動への継続的な参加につなげる。

（1）地域イベントへの参画推進（年度後半）

馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会で行っている地域イベントの盛り上げ等を行うことで、若い世代を中心に幅広い年代が参加しやすいように支援。

ここで掘り起こした地域人材を地域懇談会（エリアミーティング）の参加につなげる。

※7/12に若者会議の事業として、このエリアでフィールドワークを開催。

20名程度が参加し、エリアを見て回り、地域にまつわるクイズを作成。

（2）エリアミーティングの開催（年度末）

地域イベントの盛り上げ等により掘り起こした地域人材が一堂に参加できる、地域を題材にした討議会（エリアミーティング）を開催。

その際、若者世代を中心に、幅広い年代が参加しやすくなるように周知する。

若者世代の参画に関して
合同会社 MichiLab
(多摩市若者会議)と協働

諏訪中学区エリア（馬引沢・諏訪コミュニティエリア）

地域福祉推進委員会で立てたエリア活動目標（令和2～4年度）

- 多様な世代・団体のつながり、協働する地域にしよう
- 市民と地域商店などの連携を通じて、市民発信での地域活性化を目指そう

委員会で挙げた地域の課題

- ・馬引沢通りの店舗同士が連携する機会がない
- ・見守り活動が少ない地域がある
- ・新旧住民、多世代交流の機会がない
- ・都営団地建替えに団地居住者の高齢化に伴い、片付けやゴミ出しができない世帯が出てくる



具体的な取組み

- 多様な団体が地域情報や課題を共有する場づくりを行います。
- 多様な団体が協働して、地域課題解決を目指します。
- 地域の魅力発見と地域商店の活性化を目指します。
- 広報誌(ささえ愛)で様々な情報を市民に届けます。

令和2・3年度モデル事業



- ◎**地域を「支える」** ⇒ 地域担当職員(企画課職員)が委員会に出席するとともに、中間支援組織(合同会社 MichiLab)が、コロナ下での地域活動をITツールの活用などの面から支援
- ◎**地域の中を「つなぐ」** ⇒ 委員会が実施するイベントの運営支援を通じて、参加者同士、地域にある店舗同士、参加者と店舗とのつながりを強める
- ◎**地域の中で「掘り起こす」** ⇒ 次代を担う地域人材発掘のためのイベント(エリア版若者会議)の独自開催

モデルエリアの横断的組織

1 青少協東寺方地区委員会（東寺方小学区）

- 令和2年度第1回会議(10月31日開催) @総合体育館第1会議室
- 参加者 約70人(寺小世話人会役員、各学年のクラス代表で約30人いるため、30~40代が多い)
- 構成 エリア内の小中学校関係者、保護者、自治会長、民生委員、保護司、防犯協会などの団体【次頁】
- 活動内容 青少年の健全育成のための地域での取り組み
例) パトロール、キャンプ、地域運動会、清掃デー、どんど焼などの地域活動、行事の実施

2 馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会（諏訪中学区）

- 令和2年度第1回会議(10月17日開催) @東永山複合施設ボランティア会議室
- 参加者 21団体29人(参加者はおおむね高齢者、40代が少数)
- 構成 エリア内の自治会・管理組合、民生委員、老人会・サロン団体、地域包括、世話人(個人)【次頁】
- 活動内容 地域カルテから見える地域の課題解決のための各種取り組み
例) 見守りウォーキング、馬引沢通りウォークラリー、ごみ出し支援、広報誌の発行など

共通点

- エリア内で活動する団体、委員等の横断的組織
- 市民(役員・世話人)が運営するボランティア組織
- 役員、世話人など中心となる人材確保が課題

相違点

- 1は特定目的、2は地域福祉全体の向上が目的
- 1は子育て世代が中心、2は高齢者中心
- 2は地域福祉コーディネーターが運営支援

モデルエリアの横断的組織

参加している団体・委員・施設など	青少協地区委員会 (東寺方小学区)	地域福祉推進委員会 (諏訪中学区)
自治会・管理組合	●	●
青少協地区委員会の役員	●	●
民生委員・児童委員	●	●
児童館(地域子育て支援拠点)	●	●
小学校・中学校	●	
PTA・クラス代表・おやじの会など小中学生の保護者	●	
地域学校協働活動推進員・教育連携コーディネーター	●	
保護司	●	
地域包括支援センター		●
老人クラブ・サロン団体		●
地域で活動する各種団体	●	●
世話人(個人)		●
地域福祉コーディネーター(社協)		●

エリア内イメージ

地域を「支える」

地域の中を「つなぐ」

プラットフォーム (地域の多様な主体が参画する住民協議会)

- 地域で活動する団体・委員、個人を含む多様な主体間で情報共有
- 地域の状況把握 ⇒ 地域カルテの作成 ⇒ 地域計画の策定
- 地域共助のしくみづくり、地域の活性化・課題解決の実践

地域担当職員
地域福祉コーディネーター
が分野横断の行政窓口として連絡調整

地域福祉推進委員会

青少協地区委員会

コミセン運協

中間支援組織による運営支援

地域の中で「掘り起こす」

ワークショップやエリアミーティングの参加者など

公民館や大学連携による地域人材養成講座の修了者など

地域拠点・施設

地域資源

団体

委員

自治会・
管理組合

エリア

個人


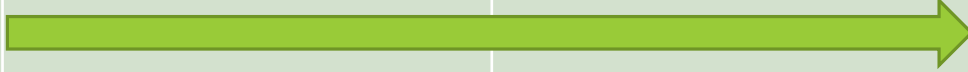






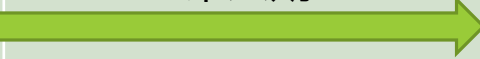
個人

個人







個人

個人

体制・スケジュール

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
推進体制	 企画課	(仮)健幸まちづくり・市民自治推進室 	
進行ステップ	■第1段階 地域の課題を発見し、共有化する懇談の場を設置し、市民の意識を醸成（モデル事業）	■第1段階 モデル事業を実施するエリアを増やす ■第2段階 モデル事業を実施したエリアにおいて、地域の多様な主体が参画する協議体づくりに取り組む	
モデル的に実践するエリア	①  ②  ①③地域福祉推進委員会設置済 ②④地域福祉推進委員会未設置	③  ④ 	
中間支援組織	① 地域への若い世代の参加を実践している団体（合同会社 MichiLab） ② 地域活性化を研究している大学のゼミ（中央大学国際経営学部 中村ゼミ）		
第七期 自治推進委員会 (R1.11～R3.11)	 モデルエリアでの実践への検証、若い世代の地域参加、地域担当職員制度への提言	答申 	第八期 

庁内検討スケジュール

	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
事務局	 企画課	 (仮)健幸まちづくり・市民自治推進室	
経営会議	1● 2● 協議 決定 地域委員会構想の考え方(方針)	10● 1● 3● 素案 決定 改正 制度設計 自治基本条例改正	
推進本部会議	健幸まちづくり推進本部会議 	(仮)健幸まちづくり・市民自治推進本部会議 	
庁内関係課会議	 <ul style="list-style-type: none"> ●解決すべき課題の共有 ●地域で活躍する人材の発掘・養成方法 ●地域担当職員に求められる役割 ●若者世代・子育て世代の地域参加促進 ●モデルエリアでの実践をふまえた課題 	 (仮)健幸まちづくり・市民自治推進本部会議 検討部会(課長級)	
関連		●11 市制50周年記念日	●4 市長選挙